

CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE 評価（新編）2016年版 | 使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-6D_NC_2016(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新北建設事務所建設工事	階数	地上3F
建設地	神戸市北区山田町下谷上字小橋7-5他	構造	RC造
用途地域	準住居地域	平均居住人員	45 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,820 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年4月 予定	評価の実施日	2025年3月5日
敷地面積	2,763 m ²	作成者	海本 芳希
建築面積	941 m ²	確認日	
延床面積	2,415 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 CASBEE神戸の重要項目

バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
<p>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</p> <p>3.0</p>	<p>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p>4.6</p> <p>Q-2/2.4 信頼性</p> <p>3.6</p>	<p>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</p> <p>5.0</p>
<p>配慮の概要</p> <p>今回、不特定多数が利用する官公署等に該当しないため、対象外ではあるが、バリアフリー計画を満たす計画とした。バリアフリーに加え、誰でも分かりやすい施設構成、各種仕様とし、ユニバーサルデザインにも配慮した。</p>	<p>配慮の概要</p> <p>神戸市北区の新たな建設事務所として、災害時の要となる施設用途のため、耐震等級は1類とした。木造とRC造のハイブリッド構造であり、RC造部に水平力を負担させ、木造部に耐力壁を設けず、各諸室の自由な間取りを提案する等、構造計画上の工夫を行った。</p>	<p>配慮の概要</p> <p>敷地(山田町)は南は六甲山系、北は帝釈山系に囲まれた谷間に開けたまちであり、多くの支流を集めながら流れる山田川(志染川)が横を流れる。豊かな自然環境に囲まれた計画地に、地域の防災拠点やまちの環境シンボルとして親しまれる施設づくりを目指した。</p>
<p>その他の配慮事項</p> <p>その他施設コンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆災害復旧時の機動力を高めた災害に強い施設づくり ◆供給に合わせた規格木材の優先利用でローコストな本造施設を実現 		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
(仮称)新北建設事務所建設工事

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.3
Q1 室内環境							0.39	-	-	2.8
1 音環境						3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	1.0	-	
1.2 遮音						4.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		サッシの遮音性等級T-2以上で計画				5.0	0.60	1.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	1.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	1.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	1.0	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	1.0	-	
2 温熱環境						3.3	0.35	-	-	3.3
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	1.0	-	
2 外皮性能						3.0	0.25	1.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		職員の主な活動場となる2階会議室、執務室は床吹出し空調方式を採用し、居住域の上下温度差や気流速度に配慮				4.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						1.8	0.25	-	-	1.8
3.1 昼光利用						1.8	0.30	-	-	
1 屋光率						1.0	0.60	1.0	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 屋光利用設備						3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 屋光制御						3.0	1.00	1.0	-	
3.3 照度						1.0	0.15	1.0	-	
3.4 照明制御						1.0	0.25	1.0	-	
4 空気質環境						2.8	0.25	-	-	2.8
4.1 発生源対策						3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						3.6	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	1.0	-	
2 自然換気性能		居室面積の1/20以上の有効開口面積のある自然換気用窓を計画				4.0	0.33	1.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ部は、各種排気口から6m以上離れた計画				4.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理						1.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						1.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.2
1 機能性						2.9	0.40	-	-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ						2.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33	1.0	-	
2 高度情報通信設備対応						1.0	0.33	1.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						3.0	0.33	1.0	-	
2 リフレッシュスペース		執務室面積の約20%のリフレッシュエリアを計画				4.0	0.33	-	-	
3 内装計画		自然素材の珪藻土や木質化を積極的に行う内装計画				4.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い内装仕上げや、高耐候性のある外部仕上げを採用				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.8	0.30	-	-	3.8
2.1 耐震・免震・制震・制振						4.6	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		官庁施設の総合耐震計画基準による耐震Ⅰ類を採用				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						2.9	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						1.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途の上位3種(給水・排水・消火)の2種以上がBかつEは不				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		重要度に応じて系統分けし、重要度の高い室を優先的に運転できる				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		緊急排水槽を計画、配管の系統区分を分割、受水槽を2槽に分割				5.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		設計用水平震度は1.5とする				4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						1.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ	各階壁長さ比率0.3以下の凹凸の少ない平面計画	4.0	0.40	1.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	2.0	-	
3.3 設備の更新性			2.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		1.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出			4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		敷地周囲の自然と調和する外観デザイン・周囲の環境に調和するアースカラー、モノトーン調とした色彩計画	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		南・西面開口部にLow-Eガラスの採用、高効率空調設備の採用等により、建物全体BPI _m =0.63となる計画	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.58	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓、節水型衛器具を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		エコマーク商品：執務室やリフレッシュエリアの床仕上げに採用	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロンを使用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ZEB Oriented相当の達成	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	砂防指定地における雨水排水許容流量以上を満たす計画	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	2つの道路に面しており、交通量の少ない道路に敷地車両出入口を設けた計画。敷地出入口から駐輪場まで行き来しやすく、配置の分かりやすい計画。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外に広告物照明を設置しない計画	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	